

# 上下南小学校学校運営協議会

基本理念：「故郷のよさや故郷の人を語れる子どもの育成」  
 コンセプト：「共に学び、共に楽しみ、共に育つ 上下南小学校コミュニティ活動の創造」  
 キャッチフレーズ：「みんな大好き わが郷土 上下  
 —かかわる・つながる・高める—」



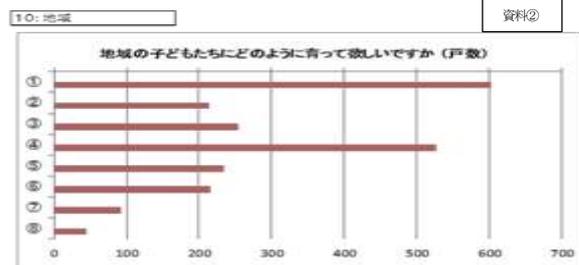
## 1 コミュニティ・スクールの取組みを通して育てたい子供像

上下町は、かつて山陰と山陽を結ぶ銀山街道の、宿場町として栄えた江戸幕府直轄の天領であった。その上下町の中で本校は、夏には蛍が乱舞するような自然豊かな農村地帯（里山）に位置している。児童数55名、教職員11名、家庭数39軒、全戸数約350戸、小規模地域・小規模校であり、過疎化が進んでいる。

地域の人にとって学校は、単に児童が学ぶ場所というだけではなく、集会的な役割を果たすこともあり、地域みんなの学校であるという思いを持っている人が多い。学校行事等には、大変協力的である。

平成30年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙（資料①）から見られるように、児童も地域の人との関わりを強くとらえていることが伺

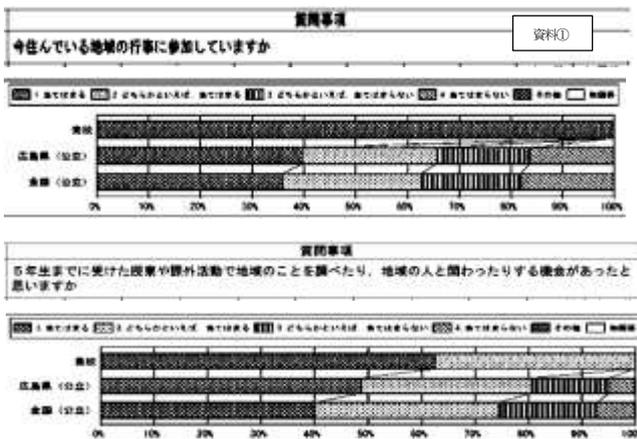
態度やあいさつができる」④「思いやりの心を持ち、周りの人と生活ができる」子どもに育ててほしいと感じていることが分かる。（資料②）



①	礼儀正しい態度やあいさつができる
②	地域を愛し、地域に貢献できる
③	最後まであきらめずに取り組むことができる
④	思いやりの心を持ち、周りの人と生活ができる
⑤	自分で考えて積極的に行動できる
⑥	自分の思いを、相手に伝えることができる
⑦	学力、体力がついている
⑧	その他

さらに、上下南小学校学校運営協議会や児童が地域の校外学習へ行った時に地域の声として「将来、地域貢献の出来る人になってほしい。進学して地域を離れたとしても、またこの地域に帰ってきてほしい。」という願いをよく聞く。

それを受けて、コミュニティ・スクールの基本理念を「故郷のよさや故郷の人を語れる子どもの育成」、コンセプトを「共に学び 共に楽しみ 共に育つ」とし、児童と地域の学びの場づくりを取組みの柱とした。



える。

しかし、児童は地域との関わりが強いものの、受け身で、自ら関わっていかうとしていく意識は高くない。

また、昨年度の上下学園の地域・保護者に実施したアンケートの結果では、①「礼儀正しい

## 2 学校の特色を生かした取組み

コミュニティ・スクールの取組みは、大きく3方向から行っている

### (1) 上下学園としての取組み

#### ①小中高合同清掃活動

8月に小学校5・6年生、中学生、上下高校生、町内会長、民生児童委員や保護者・地域住

民の参加により地域清掃活動を行った。事前に地域の中学生のリーダーと児童が活動の意図や場所などの打ち合わせも行った。活動当日は、草取り、ごみ拾い、トイレ掃除等を行い、地域から「綺麗になった。ありがたい。」「地域に子ども達の声が響き大変嬉しかった。」という声も寄せられた。



## ② 翁山ツリー復活

翁山ライトアップを昨年（平成 29 年度）復活させるために、上下学園 4 校（高校も含む）

で取り組んだ。子ども発信で上下を盛り上げる取組みを今年度も計画して進めている。

## （2） 上下南小学校での取組み

### ① 「学びの支援」の取組み

・本校は、太鼓、お茶、書道等を中心に文化の継承を行っており、ゲストティーチャーとして地域の方に指導をしていただいている。この学習を生かして、上下町の行事で太鼓を披露したり、「いきいきサロン」では、お茶でおもてなしをしたりして、地域へ発信を行っている。

また、社会科や生活科、総合的な学習の時間の学習でも、地域の方に入っただき、専門的な話や指導をしていただくことで、興味や探究心がわき児童の学習が深まっている。

### ② 「コミュニティ・スクール行事」を通しての取組み

・運動会は、地域、保育所、中学校、高等学校

へも呼びかけ、みんなが関わることの出来る種目を設けた。学校・家庭・地域が一体となつて行う事が出来た。

・コミュニティ・スクール 1 年目（平成 29 年度）より児童の発表会を地域総ぐるみの発表会とした。児童発表の外、地域発表のステージと昼食を囲み、ふれあい遊びを行った。2 年目の今年度はより一層児童が地域の方に発信できる場と位置づけ、接待や遊びコーナー等の運営にも児童が携わっていく計画としている。



## （3） 「地域への参加」の取組み

① 地域行事への参加： 地域から地域での活動や行事の予定が学校へ寄せられるようになり、積極的に呼びかけ、グランドゴルフ大会や夏祭り等へ参加する児童が多くなった。

② CS 便りの発行： CS 便りを町内会の回覧板を活用して発行し、取組みを発信したり、協力をお願いしたりしている。

## 3 今後の方向性

### （1） 成果

・地域から学校へ協力依頼もされるようになり、双方向での関係が見えるようになってきた。  
・CS 活動で子供達に活躍の場を与えることで、児童も地域を意識した考えで取り組めるようになってきた。

### （2） 課題

・行事を通して、児童が学習したり発表したりしている姿を見てもらったり、ふれあったりする活動が多く、地域と児童が共に学べるコミュニティ・スクールという側面がまだ薄い。  
・CS としての取組みが育てたい子供像を見据えたものになっているか、継続性のあるものになっているか等検証が必要である。分析した上で次なる取組みを進めていく。  
・地域へのCSの周知活動の更なる充実を図る。

